

解答

問一 若い母親は、子どもが自分のイメージから外れ、思いどおりに育っていないと、不安にかられ、神経をまいらせてしまう。そのため、子育てが、子どもがどんな人間になるか楽しんで待つようなものでなく、神経をすり減らすつらい営みになっていること。

問二 評価制度のためには膨大な時間と労力が必要で、組織の構成員がひどく疲弊する。さらに、計画を立てたときには視野になかったが、途中で生まれた発展的な仕事はまったく評価されないで、創造的な仕事の面が完全に無視されるという問題。

問三 待たされた小次郎は、じりじり待つうち、期待と落胆をくり返し、やがて神経がすり減って、視野狭窄の状態に追い込まれた。そのため、心がはやり、頭に血がのぼって、相手の戦術を読んだりする冷静さも失い、宮本武蔵が現れたときに、ただやみくもに斬りかかったから。

問四 自分と同じように強制収容所に監禁されている妻がどのような取り扱いを受けているか、まだ生きているか、また自分の未来はどうなるのか、殺されるのか、というような自分や家族の生死にかかわる不安や恐怖。

問五 ① 果報 ② 天命 ③ 海路

問六 「時を駆る」は、未来の目標に向けて効率的に早く進んでいくことだけを考える点で、一見すると能動的である。これに対し、「訪れを待つ」は、自分の方から何か仕掛けたり介入したりしないで、機が自然に熟すことを待つ、偶然に任せて待つという点で、一見すると受動的である。

問七 改善 沿（って）

法外

背景

経過

墓穴

解説

「待つ」ということについて、人生論的考察を加えた、鷲田清一の論説文です。5000字を越える論説文ですが、「子育て」の例や、企業や大学での「評価制度」の例、宮本武蔵の巖流島での決闘の例、フランクルの『夜と霧』の例など、分かりやすいいくつもの例を挙げて説明されていますので、難解という印象はありません。むしろ読みやすく、また分かりやすかったのではないのでしょうか。

さて、本文は、二枚目の初めと三枚目の初めと真ん中の計三カ所の“問いかけ文”を区切りとして展開されています。しかし、武蔵中らしく、設問は文章全体の構成や筆者の全体的な主張などは問題としていませんから、部分をしつかり読んで、設問に答えていけばよいでしょう。設問の多くは、内容を要約する性質のもので、字数制限なしという武蔵中の記述条件は、解答者にとっては非常に助かり、書きやすかったことでしょう。

問一 一つ目の例の「子育て」についての設問で、現代のせっかちな「待てない母親」の子育てにおける「深刻さ」の説明を求めています。傍線部に続く段落の中から、必要な語句や説明を拾い出し、うまくまとめていけばよいので、そう難しくありません。ただ、設問で求められている事柄（題意）を正しくつかまないと、内容や答えの止め方で不適切な失敗をして、不必要な減点を食らってしまいます。内容は、まず子育て中の母親のおちいる心理的状态を具体的にしくわしく説明します。少しでも自分の「思いどおりに」子どもが育っていないと、「不安にかられ、神経をまいらせてしまう」。そしてその結果、本来は「楽しんで待つ」はずの子育てが、「神経をすり減らすいとなみ」になってしまう、ということもまとめて書いておきます。

問二 二番目の例の「評価制度」についての設問です。この問題も、続く段落の内容から「評価制度」の問題点つまり欠点を拾い出し、まとめていけばよいだけなので、難しくありません。傍線部の5行後ろの「けれども」からの部分に書かれている、組織構成員の疲れがまず一点目です。次いで、その後には書かれている、計画の実行途中で現れた計画外の発展的な仕事が多々評価されないという点が、二つ目の問題点です。

問三 三番目の宮本武蔵の例は、「期待して待つ」ことが「視野狭窄へと追い込む傾向」を持つことを述べた後に置かれている、その例です。武蔵が相手の小次郎を待たせることでどうして相手に勝ったのか、と問うています。ですが

ら、傍線部に続く2段落でくわしく説明されている小次郎の心理の動きを、上手に整理しまとめていけばよいのです。小次郎は、「期待と落胆をくり返し」、「やがて神経がだんだんとすり減って」、ついに「視野狭窄にはまった」のです。そこで、武蔵が現れたとき、「心はやはり」「頭に血をのぼらせた」小次郎は、「相手の戦術を読む間もなく斬りかかって」しまったわけです。

問四 設問の意味さえつかめば、最も平易な問題だったでしょう。フランクが「より大きな、より重大な問題」から目をそむけるために思考を集中させた対象は、傍線部の直前に列挙されている目先のこまごました日常茶飯の事柄です。これに対し、大きな問題の方は、その前に書かれている妻のことで自分のいのちのことで、「不安や恐怖」にそののいています。過不足のないように、うまくまとめてほしい問題です。

問五 「待つ」を使った慣用句・ことわざの言語要素問題です。漢字で熟語を書かなければならないのですが、見たことのないような難しい問題はありませんから、普段の学習がきちんと出来ていれば容易なはずですが、見たことのないような難しい問題はありますか、普段の学習がきちんと出来ていれば容易なはずです。

問六 この設問は使うべき部分の範囲を少し決めにくかったようです。この後ろに「農耕」や「発酵食品」の話、「イニシアティブの放棄」についてなど、本文の最後までにいろいろと書かれているので、それらも含めてまとめるとなると範囲が広くなり大変です。しかし、後ろはそんなに範囲を広げる必要はなく、「時を駆る」については傍線部の前の段落だけ、「訪れを待つ」の方は傍線部の段落と次の段落の2段落分の内容を主に使ってまとめればよいでしょう。

問七 6問の漢字はいずれも難しい漢字ではないですが、「法外」「墓穴」があまり慣れていない熟語だったかもしれません。こういう所では語彙力が試されます。